

奉安殿と校長先生

今坂柳二

わしが昔のことを語ると皆さんは「そんなの年寄りの世迷いごとだ」とか言つてソツポを向かれてしまう。一銭五厘の赤紙で戦争に狩り出されるとか、竹槍で敵さんをやっつけるとか、戦争を知らん若い者にすれば、タワゴトかもしれない。でもな、七十年前はそんなことが毎日あったんだ。

わしらの村に、一枚の写真を守るためにタマにうたれて死んだ校長先生がおった。その事件がわしらが町のイリソ小学校でのごとつて知れば、このわしの昔ばなしも信じてもらえるかもわからん。

その話は昭和二十年の七月十日に起きた。早朝から敵の飛行機が近づいたことを知らせる「空襲警報」が出されておったが、やがて解除になって登校、ところが本を開くと二度目の警報が出て緊急下校だ。

全国の学校と同様、イリソ国民学校もグラウンドを半分、耕してイモやカボチャを植えた。その中に防空壕。家が遠い子供たちはここに入った。

このとき、校長は大事なことに気づいたんだ。他のことは指令すれば職員が働いてくれる。けれど奉安殿の天皇のお写真と教育勅語の安全は、校長の職務だったんだ。何処かで飛行機の爆音があるが、ご真影と称する写真だけは、危険だから、何て言い訳は言っちゃあおれん。職員室へと返つて大切なカギを握つて玄関へ走る。

超低空で近づく艦載機ポート・シコルスキーF4Uと校長先生と、どちらか数秒、早いか遅かつたら……しかし現実にはタラもレバも通用するわけではない、玄関からグラウンドへ降りた瞬間、玄関の向かつて右の柱の根本に小型爆弾が破裂した。

いかがですか、ここで年寄りのわしの話がタワゴトであるかないか、その証拠として十三日付け埼玉新聞を見ていただきますよ。

「奉安殿の鍵は堅く右手に握りしめ、僕に構わず出火の有無を調べろ」「同十一日午前七時二十分逝去」

あんちゅうこつたんべ、お写真も大事だけど、命はまっと大事だいな、皆がよ、そうだんべ。戦争つて

こんな恐ろしいことがおきるんだ。あつ、その人の名はコクボコーゾーつて言うんだ。立派な先生だったぞ。



入間野神社境内に再建された奉安殿

註：終戦後の一九四五年十二月、GHQによる神道指令により、入間小学校の奉安殿も撤去解体されることになったが、解体を惜しんだ旧入間村民の声を受け、建物は南入曾の寺院金剛院の土蔵に、礎石は南入曾の神社入間野神社に保管された。一九五〇年四月、奉安殿は戦没者を祀る「入間招魂社」の社殿として入間野神社境内に再建された。以後今日まで維持され現存している。(狭山市ホームページより)

いまさかりゆうじ 狭山市笹井在住。二十四歳から俳句に関わつて、現在同人誌「つばさ」代表。かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

市民芸術祭が終り、ほっとする間もなく会報で原稿をお願いした方には、急がせてしまいました。先日、大野顧問にお庭で話しを伺いましたが、朗読、古代装束ファッションショーなど、特に演出、構成の素晴らしさが地元でも出来ない良さだったと感謝されておられました。桜まつりも近づき、開花が早まる予報に一喜一憂するこの頃です。

(高沢正夫)